

## 下越地区丸太採材技術等の現地検討会を開催

令和5年8月7日  
関東森林管理局  
下越森林管理署

新潟県下越地区の丸太採材の技術の向上を図ることにより、一本の丸太の価値を高めるための採材方法の現地検討会を開催しました。

### 1. 概要

下越森林管理署では、長年かけて育てた木の価値を高めることを目的に、伐採した一本の立木から、低質材、短尺材を減らし、価値の高い丸太を生産するための、適切な採材方法・採材順位について技術の向上を図ること及び、発注者、生産者（事業者）、需要者間で共通の認識を持つ機会として、令和5年7月27日（木）に新潟県東蒲原郡阿賀町古岐字古岐山国有林内において現地検討会を開催したので御紹介いたします。

### 2. 当日の参加者

当日は、猛暑の中での開催となりましたが、関東森林管理局、下越森林管理署、村上支署、下越地区の事業者（2者）、製材所、新潟県森林組合連合会から総勢30名参加していただきました。（写真①、②）



①参加者への検討内容の説明



②各班が採材寸法を検討

### 3. 実施内容

現地検討会の会場に並べられた全幹材ごとに5班に分かれ、造材寸法書に定められた採材順位を基本として、各班が採材寸法の検討を行いました。（写真③）

取り纏めた検討結果をそれぞれ発表し、参加者からの質問や意見交換を行い、採材した寸法に基づき一部を造材して、造材基準寸法書に照らして丸太の曲がり具合などを確認しました。（写真④、⑤）



③ 3班の採材寸法を検討状況



④ 各班の採材検討結果を発表

特に興味深かったのは、下越地区で多く発生しているクマの樹皮剥ぎ被害木を丸太にした際の小口の染み（腐れ）具合でした。製材所によると、染み（腐れ）の程度で、製材として強度的に問題ない場合と、製材として使えない場合があるとのこと。（写真⑥、⑦）この辺は採材してみないとわからない場合が多く、根元から採材しながら小口を確認しつつ、その次の造材寸法を決めていくしかないとのことでした。



⑤ 採材寸法した箇所を切ってみる



⑤ 丸太の曲がり具合を確認



⑥ クマの樹脂剥ぎ箇所の染み（2番玉）



⑦ クマの樹脂剥ぎ箇所の染み（元玉）

#### 4. まとめ

製材を念頭においたプロセッサによる造材作業では、目視で曲がりがないと確認できなければ、短尺材に採材するのがよいこと、クマ剥ぎが確認された際には短尺材に造材しつつ、小口の状況に応じて採材寸法を考慮していくことを、今後を活かしていくこととしております。

最後に、関東森林管理局より森林作業道を作設する際の留意事項と講評をいただき、現地検討会を終了しました。